

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォイストレーニングⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	現在はヴォーカリストとして活動しつつ、ヴォーカルトレーナーとしても積極的に活動中。					
授業概要						
1年ヴォイストレーニングの復習と応用。楽器である身体を鍛えるべく、曲を歌いながら使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、発声に必要な体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	一年次の復習と修正。ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	一年次の復習と修正。発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。					
【前期】 9～12回目	一年次の復習と修正。言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。					
【前期】 13～17回目	一年次の復習と修正。音呈ではなく'響き'を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。					
【後期】 18～21回目	一年次の復習と修正。高音域を発声に必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合いをコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。					
【後期】 22～26回目	一年次の復習と修正。声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。					
【後期】 27～31回目	一年次の復習と修正。歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。					
【後期】 32～34回目	今まで学んだことすべての知識、メソッドを復習し、さらに完成度を高める。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	セルフプロデュース		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	セルフプロデュース		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	自身でもシンガーソングライターとして積極的に活動中。					
授業概要						
学生個々の個性(特性、音楽性)を確認しながらオリジナルsongの作成や、カバーsongの歌唱、ギターボーカル、ダンスボーカル、演奏可能楽器の有無等、学生それぞれに向いている方向を見定め、どのように表現して行く道があるのか?どのような表現方法が向いているか?を探していきます。						
到達目標						
ライブやレコーディングで質の高いパフォーマンスを披露し、人を感動させることができる。またそれらのパフォーマンスや音楽性などをオンラインを通じて発信できるようにする。また発信する上で、自身の強み・弱みを分析しながら活躍フィールドに適した発信方法を自身で気づきコンテンツ制作ができる人材を育成していく						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	授業の目標共有や受講者の経験・志向を把握し、影響を受けた音楽の発表と議論を行う。発声準備や歌唱実践、表現技法の習得を通じて課題を共有し、楽曲に適したテンポ設定と演奏力向上を目指す。					
【前期】 5～8回目	録音機材や方法、喉ケアや心構えを学び実践。振り返りと音源発表方法を理解し、楽曲選定を行う。ライブ想定の演奏で課題を確認し、観客を惹きつける表現力向上を図る。					
【前期】 9～12回目	表情や所作、観客を惹きつける演出を強化し継続練習。MCの役割や適切な伝え方、事前準備を学ぶ。最終的に通しリハーサルを経て、本番のステージで成果を発表する。					
【前期】 13～17回目	発表後の振り返りと議論を行い、今後の目標を再設定。次の発表に向けて練習を重ね、内容の復習と試験準備を実施。最終的に録音と演奏を伴う実技試験で成果を評価する。					
【後期】 18～21回目	・自己実現のための目標設定をする、現在地との距離と目標に向かって何をすべきかを言語化する ・SNSの基礎知識を理解する(各SNSの役割と特徴) ・それぞれのSNS基礎知識(Instagram、TikTok、YouTube、X、ライブ配信等)					
【後期】 22～26回目	・ロールモデル、ペルソナ設定の仕方 ・プロセスエコノミーから学ぶファン化 ・ファン化のためのライブ配信					
【後期】 27～31回目	・他者プロデュース(プロデューサー目線でさまざまなものをプロデュースしてみる) ・プロデューサー目線になり、どうしたら発信が届くのかを考えられるようになる ・チームでそのアーティストをプレゼンし、自分だったらどうするかを考えられるようになる					
【後期】 32～34回目	・クラウドファンディングでの資金調達とマネタイズ、案件の取り方 ・自分ならどんな発信をしていくかをまとめ ・投稿後の分析、ABテスト、形ができたその後など、自身でPDCAを回せるようになる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルテクニックⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
1年次に習得したテクニックの復習と応用。歌詞やおケの演奏に対して必要なテクニックを理解、習得し表現力を高め伝える歌、感動を与える歌を創る。						
到達目標						
歌詞の世界観にふさわしい表現を練りこみ、「伝わる歌」を歌えることをめざし、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「自由曲の中でのアタック、アクセントの習得」の一年次の復習、修正 ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・子音の長さ及び、強さとの関係 ・オケのリズムアプローチとの関係					
【前期】 5～8回目	「自由曲の中でのダイナミクス、クレッシェンド・デクレッシェンドの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践					
【前期】 9～12回目	「自由曲の中でのヴィブラートの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践 ・エッジヴォイス、ヴォーカルクライの習得					
【前期】 13～17回目	「自由曲の中でのエッジの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践					
【後期】 18～21回目	「自由曲の中でのアップベンド、ダウンベンドの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なスケールトレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践					
【後期】 22～26回目	「自由曲の中でのファルセット・ウィスパーヴォイス・フォールの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え					
【後期】 27～31回目	「自由曲の中でのブレスアビール、ブレスカットの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践					
【後期】 32～35回目	「自由曲の中でのヒーカップ、グロウルなど特殊テクニックの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルクリエイト		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルクリエイト		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	様々なジャンルの歌唱法を得意としている。コンサート、レコーディング等にヴォーカリスト、コーラスとして参加。 それと並行してヴォーカルコーチとしてアーティスト、俳優、声優など後進の育成を手掛ける。					
授業概要						
1年次に掴んだ自分のスタイルを更に極める為に、発声、テクニック、ステージングなど全ての面をスキルアップ。個々の声質、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を一年次よりも確立させ、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げて「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライブやオーディションに繋げることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	1年次にある程度絞り込んだヴォーカルスタイルを学生に口頭で説明させ、実際に歌唱で確認。 声質、音域、現時点で身につけているもの、足りないものを提示及び解説し、残りの一年間で学ぶべき内容を正確に自覚させる。					
【前期】 5～8回目	発声面の良いところと1年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする					
【前期】 9～12回目	発声面、技術面の良いところと1年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にベンド、ヴィブラート、エッジに関して)					
【前期】 13～17回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ボーシングの設定と変化に関して) フルコーラスの仕上げ、1年次との比較（歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて） 前期試験					
【後期】 18～21回目	発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して＋支え、滑舌)					
【後期】 22～26回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にベンド、ヴィブラート、エッジ＋プレスアビール、アクセントなど)					
【後期】 27～31回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導					
【後期】 32～35回目	フルコーラスの仕上げ、1年次との比較（歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて） 後期試験 総復習、アーティスト性の絞り込み					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	表現歌唱		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	表現歌唱		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ダンスヴォーカルグループでメジャーデビューし、その後はソロヴォーカルとしての活動など多岐にわたって活動中。					
授業概要						
ダンスボーカルにおける「歌唱と身体表現の統合」を目的とする。歌唱技術、呼吸コントロール、体幹の安定を養い、歌いながら踊る状況下でも音程やリズム、表現が破綻しない実践力を磨いていく。またダンスボーカリストとしての自己表現力を高めていく。少人数ならではの特性を活かし、個別フィードバックと実践を重視していく。						
到達目標						
歌唱とダンスを同時に行っても、音程やリズムが安定する身体コントロールを身につける。また、楽曲の世界観を理解し、声や動きに反映させることができるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「オリエンテーションおよび基礎確認。」年間の到達目標を共有し、基礎の発声や呼吸コントロール、体幹の安定を確認していく。					
【前期】 5～8回目	「基礎構築」体幹トレーニングや基礎発声、呼吸のコントロールを養う。課題曲を取り入れ、止まった状態での歌唱の安定感を確認しつつ、軽い振付を付けて歌って踊ることを実践していく。					
【前期】 9～12回目	「歌詞解釈と身体表現①」課題曲の歌詞分析をしながら、どのように表現すべきか自ら考えて歌唱や動きに反映していく。観客に伝わるダンスボーカルの表現を磨く。確認のための撮影も取り入れ、自分がどのように見えているのかを知る。					
【前期】 13～17回目	「振付完成①」一曲を通し、歌いながら踊る。構成やパート割を自分達で考える。通しでの練習＋撮影を行い、全員で確認しながらブラッシュアップしていく。グループパフォーマンスの向上を目的とする。					
【後期】 18～21回目	「アーティスト研究」アーティストのライブ映像などを観ながら、各々が感じたことを共有し、表現の研究を行う。前半の授業よりも難易度を上げた新たな課題曲も取り入れる。					
【後期】 22～26回目	「本番想定のパフォーマンス」ライブ本番を想定し、心拍数をあげた状態でパフォーマンスを行う。構成やパート割を自分達で考え、カメラでチェックしながら繰り返し行っていく。					
【後期】 27～31回目	「歌詞解釈と身体表現②」歌詞分析しながら、どのように表現すべきか自ら考えて歌唱や動きに反映していく。さらなる安定感を目指し、反復して練習する。					
【後期】 32～35回目	「振付完成②」一曲を通し、歌いながら踊る。最後の授業で衣装なども自分たちで考え、発表する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ダンスAⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ダンスAⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	メジャーアーティストのバックダンサーとして全国ツアーなどを経験。 現在も数多くのアーティストのバックダンサー等で活躍中。					
授業概要						
基本的なストレッチ(スピリッツ・開脚を重点的に)・筋トレ(腹筋・背筋・側筋・肩)のトレーニング・スクワット・体幹トレーニング)は毎回行い、踊る上で必要な身体作りを行う。						
到達目標						
ダンサーとして必要な身体作り・基礎能力を習得し、振付をただ踊るだけではない表現者となる。 また振付を考える能力を身に付け、一人前のダンサーとしてのスキルを習得する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	JAZZ基礎(ブリエ・バランス・ピルエット・シェネ・クロスフロア)					
【前期】 5～8回目	リズムトレーニング(ダウン・アップ・前ノリ・後ろノリ)					
【前期】 9～12回目	アイソレーション(首・肩・胸・腰)					
【前期】 13～17回目	テストに向けて長めの振付を覚え、自己表現ができるまで踊り込む。					
【後期】 18～21回目	課題や苦手克服への取り組み					
【後期】 22～26回目	振り付け(Hip-hop、JAZZ、GIRLSHIPHOP)					
【後期】 27～31回目	オリジナルの振り付けを考案、発送両区を高める					
【後期】 32～35回目	発表会					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ステージパフォーマンスⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ステージパフォーマンスⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	有名アーティストのバックダンサーやMVに出演。テーマパークのパレード・ショーダンサーも務め、幅広く活躍している。ダンス部の指導者でもあり、インストラクターとしても活動中。					
授業概要						
人前で表現する事の心構えや他者との協調性を学ぶ。						
到達目標						
ステージに立つ為の集中力、想像力、表現力、忍耐力等の習得						
授業計画・内容						
【前期】 1～8回目	歌・ダンスのオーディションを行い、1つのショーケースを創り上げるため、それぞれの役割を決める。 ソロ曲の選曲・選抜ナンバーの選考などもオーディションの結果によって決定する。					
【前期】 9～16回目	グループでの曲選曲・メンバーに適している曲を選曲し、講師によるパート割、ハモリなどを行う。 ダンスは講師のアドバイスをもとにセクションに分け、学生それぞれで振り付け・構成を作っていく。					
【前期】 17～24回目	パートや振り付けの完成度を上げる作業に入る。 お客様に見ていただくにあたり、最低限の表現力を身につける。 自身の役割の中でベストのパフォーマンスを身につける。					
【前期】 25～30回目	本番に向けての全体練習。作品に出演する為の他者とのチームワークを学ぶ。振付・本番の流れを全員で揃えていく。 通し稽古を開始。 前期試験					
【後期】 31～40回目	歌・ダンスのオーディションを行い、1つのショーケースを創り上げるため、それぞれの役割を決める。 ソロ曲の選曲・選抜ナンバーの選考などもオーディションの結果によって決定する。					
【後期】 41～50回目	グループでの曲選曲。作品の内容に対しどのような楽曲が自分達に作品に適しているかを考え選曲する。 パート割をし、主旋律、ハモリなどそれぞれ入れていく。 グループに分かれて振付を考案					
【後期】 51～70回目	本番に向けての全体練習。作品に出演する為の他者とのチームワークを学ぶ。 振付・本番の流れを全員で揃えていく。 通し稽古を開始。 後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ダンスBⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ダンスBⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	メジャーアーティストのバックダンサーとして全国ツアーなどを経験。 現在も数多くのアーティストのバックダンサー等で活躍中。					
授業概要						
ストレッチ・体幹トレーニングを毎回行い、踊る上で必要な身体を作る アイソレーション・リズムトレーニングを兼ねた基礎トレーニングを行い、さらに応用も含めた振付で基礎力を向上させる 振付の中で、様々なステップを習得する						
到達目標						
1年次に身につけた基礎の精度を高める ただ振付を踊るだけではなく、身体を細かい所までしっかりと使い、ノリ・グルーヴ感が出せる踊りを身につける						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	2～4×8程度の基礎トレーニング(アイソレーション・リズムトレーニング)を繰り返し行う					
【前期】 5～8回目	基礎トレーニングを元に、基礎の応用も含めた振付を行う					
【前期】 9～12回目	振付の中に様々なステップを入れ、多種多様な足さばきを身につける					
【前期】 13～15回目	覚えた振付を踊り込むことで、ノリ・グルーヴ感(動きの緩急や止め・溜めなど)とは何かを掴む					
【後期】 16～20回目	前期に行った基礎トレーニングをさらに細かく、身体をしっかりと使ってノリ・グルーヴ感を表現する					
【後期】 21～25回目	振付を長めにし、振り覚えを早くする					
【後期】 26～30回目	短時間で振付を作成する					
【後期】 31～35回目	どんな振付でも、ノリ・グルーヴ感を表現する					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカリスト総合講座		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	ヴォーカリスト総合講座	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	様々なステージ、メディア出演を経験、現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。					
授業概要						
これまでに得た感性や知識を元に今後自分自身がヴォーカリストとして発信していきたいメッセージを自覚し それを伝える為の歌唱スタイルを磨き、更なる知識・経験値の習得でヴォーカリストとしての進路を定めていく						
到達目標						
全カリキュラムを通して身につけたヴォーカリストに必要な知識・技術・経験値を歌唱表現・ステージング・パフォーマンスへ実践的に応用できるようになる						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	■自身のヴォーカリストとしてのあり方をプレゼンできるようなステージ作り案を練る ■15分の持ち時間でセットリストを考案し、タイムテーブルを含めた構成表を各自で作成する ■自身のショーケース内のウィークポイントを洗い出し、授業内で歌唱技術・ステージング全般をブラッシュアップしていく ■パフォーマンスを披露(2週) ■動画を観ながら自身のステージの振り返り、他学生・担当講師からフィードバックをもらう ■1・2年合同模擬オーディション					
【前期】 5～8回目	■1・2年合同発表会 ■オーディションパフォーマンス対策 ■新たに、ステージングやパフォーマンスや歌唱表現に特化した知識を追加で学ぶ ■前期試験対策授業					
【前期】 9～12回目	前期試験					
【前期】 13～17回目	■アカペラコーラス講習① 各クラス毎にパート分けし、アカペラアレンジされた課題曲を人間の声だけで歌唱演奏し、ステージングも含めて完成させる。					
【後期】 18～21回目	■前期に披露した15分のステージパフォーマンスの内容やそれに対するフィードバックの内容を加味して 前期を上回るクオリティーのショーケースを構築(前期とは違い、2人ペアや3人以上のグループでライブパフォーマンスを行なっても良い。人数によって持ち時間変動) ■前期同様、数週にわたって歌唱技術・ステージング全般のブラッシュアップを行い、パフォーマンスを披露し、フィードバックをもらう(2週ずつ行う)					
【後期】 22～26回目	■前期・後期のパフォーマンスとフィードバックを参考にステージ衣装や歌唱スタイル、表現の方向性などについて考える ■自身の表現活動へ必要な衣装選びやメイク、芸能文化全般知識の学習 ■アカペラコーラス講習② 各クラス毎にパート分けし、アカペラアレンジされた課題曲を人間の声だけで歌唱演奏し、ステージングも含めて完成させる ■後期試験対策授業					
【後期】 27～31回目	後期試験					
【後期】 32～35回目	■前期・後期に行ったライブ内容を分析して学園生活集大成となるライブパフォーマンスの構築と発表					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	分野別講座Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング				
【前期】 3～14回目	ミュージックビジネス				
【後期】 15～28回目	ミュージックビジネス				
【後期】 29～33回目	ビジネス文書				
【後期】 34～35回目	所得税と源泉徴収・確定申告				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						